

観世元章(左近)

能役者。幕府の権威を背景に強い影響力を発揮，創始した演出や秘伝の大半が今日まで継承される。

かんざもとあき

・・・・・・・・1722 = 江戸で，14世観世織部清親の長男に生まれる。

・・・・・・・・1731 = 9歳：

享保大飢饉・1732 = 10歳：

・・・・・・・・1740 = 18歳：

徳川吉宗隠居1745 = 23歳：

義経千本桜・1747 = 25歳：\_家督を相続して，左近と改め，15代目観世大夫となる。

・・・・・・・・1749 = 27歳：

・・・・・・・・1750 = 28歳：\*江戸神田筋違橋門外で，前例のない晴天15日間の大勸進能を興行し，

徳川吉宗没・1751 = 29歳：

・・・・・・・・1752 = 30歳：弟である織部清尚の分家(鎮之丞家)樹立が認められた。

宝暦事件・1758 = 36歳：\*次期將軍家治の能指南を命じられ，観世座は幕府筆頭大夫の地位を不動のものとした上，福王流主体の京都素謡界を流儀にとりこむことに成功して，流勢は頂点に達する。

大岡忠光没・1760 = 38歳：

\_父同様に家伝の古書を調査し，田安宗武・賀茂真淵・加藤枝直・寺町百庵ら幕閣や国学者の協力を得て，かなりの年月をかけて改訂を施し，とくに世阿弥伝書に傾倒して注釈を加え，

蘭銭初輸入・1765 = 43歳：\*幕府御用書肆出雲寺和泉樓を版元として，古曲復活や新作を含む210曲の謡本，「二百拾番謡目録」1冊，「九祝舞」1冊，「独吟」9冊から成る「明和改正謡本」を刊行。

明和事件・1767 = 45歳：

また間狂言の台本「副言巻」も刊行した。\_流内に使用を強請したが，国学色濃厚で極端な改訂文句は当初より不評で，死去後すぐに廃されるも，以後の観世流謡本に少なからず影響を残している。

田沼意次老中1772 = 50歳：

解体新書・1774 = 52歳：\_没した。

観世三十郎元長は長男。弟は17世観世織部清尚。